



府中かんきょう市民の会

NPO法人 府中かんきょう市民の会会報
 2019年秋号 10月9日(水)発行 通巻74号
 発行人 小西 信生 (府中市四谷6-19-20)
 TEL 042-405-8524
 編集人 葛西 利武
 (府中市市民活動センタープラッツ登録団体)

江東区清澄庭園
大正記念館にて

東京都公園協会賞(優秀賞)贈呈式に参列

☆竹内章 相談役/贈呈式参列
専門誌への寄稿

さる令和元年7月7日(日)、公益財団法人 東京都公園協会主催の公園協会賞贈呈式が、江東区清澄庭園の大正記念館で行われました。当会から小西理事長と私(相談役)が出席して、表彰状並びに副賞をいただいて参りました。

第54回の今年の応募は33点で、受賞は14点でした。内訳は最優秀賞1点、優秀賞5点、奨励賞8点でした。当会は優秀賞の内の「ボランティア・社会貢献活動部門」での受賞となりました。贈呈式等の時間は10:30~12:30です。



受賞者記念撮影
前列右から3人目 竹内章氏

をあげている点や、近隣の小学校の環境教育への参加、市と定期的に連絡会を設置するなど、地域に根差した活動が評価されたものと思われます。

特に、自然保護の啓発活動を継続しており、湧水調査や樹木ガイドブックの作成など市民活動として有意義な取り組みが、公園協会賞の趣旨と合致したことと思われます。

贈呈式の後、協会主催のレセプションがあり、そのなかで「受賞者より一言挨拶」の場があり、当会が創立20周年を迎えた事。この間の活動実績をアピールして参りました。

専門誌への寄稿 ※会報・新年号(通巻75号)に転載予定
 なお、協会側からの要請で、受賞作品の概要を協会発行専門誌「都市公園」(年4回、各800部発行)に紹介するため、2頁(約3700字)にまとめ寄稿する事になりました。



東京都公園協会 佐野理事長から
表彰状授与 竹内章氏

約20年にわたる西府崖線保全活動の実績評価

当会の活動が評価された背景として、約20年にわたり、西府崖線の保全活動を通じた活動の実績があり、崖線の自然環境を守るための様々な活動に力を入れており、一連の取り組みにより、ごみの減量、シュロの抑制など成果

《ボランティア・社会貢献活動部門》

☆浅田多津子/西府崖線保全活動チームリーダー 応募書類作成

「緑と水のネットワーク『西府崖線』の保全活動のさらなる推進」で優秀賞受賞

「東京都公園協会賞」とは、東京を緑豊かな都市にするため、「緑と水」の普及啓発に参加協力した市民(個人、団体)から、技術・論文・実施記録および報告・ボランティア活動の4部門に分けて作品を公募し、優れたものに表彰。

東京市の時代の公園課長で、その後東京都公園協会理事長を永らく務められた(故)井下 清氏の寄付を基金として1964(昭和39)年に制定された。1965年4月に第1回贈呈式が行われて以来、毎年実施され、当初は推薦制で公園緑地行政への貢献に対する公園協会賞などであったが、部門も拡大され2001(平成13)年から公募制となった。

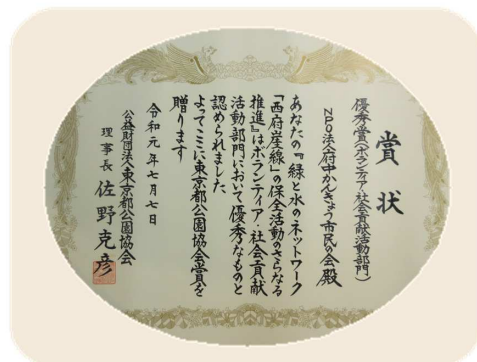
横山永望相談役(初代会長)から応募提案

当会の横山永望相談役から、この10年間、西府崖線保全活動を行ってきたことについて、是非「東京都公園協会賞」に応募するようにと提案がされた。我がチームは2017年から西府崖線隣接の府中市立第五小・第3学年の『崖線の生き物自然観察学習授業』を担い、応募締め切り(2019/3/30)の直前には、府中市立四谷小学校から多摩川の自

然観察学習の新たな依頼があるなど、さらに応募用紙提出の後押しをしてくれた。

地域で環境活動をしている団体が学校に出向き、身近な自然環境を子ども達に伝えることの重要性や、その発展性も感じることができ、盛り込む内容も充実した。20周年を迎えた当会の歴史の中でも、JR南武線・西府新駅ができる前から崖線や湧水保全の優位性について市政へ提言を重ねてきた経緯も応募内容に大きく取り上げた。

身近にある自然を大切に思い、長年行動してきた集大成を伝えることがきたのではないだろうか。



賞状 (令和元年7月7日付)

絶好の
稲刈り日和

田んぼの学校／稲刈り・ハサかけ



青空を背に笑顔の記念写真

雨中での稲刈りを覚悟

9月22日(日)は第2回田んぼの学校「稲刈り・ハサかけ」です。台風17号の襲来と秋雨前線の活発化で3日前の天気予報では21日(土)は終日雨、22日(日)は雨で、スタッフは全員が「田んぼはぬかるみ、雨中での稲刈り」を覚悟していましたから望外の天気に感謝です。時間は8:30～11:30。

9月中旬、千葉市に上陸した台風15号は猛烈な風で千葉県に大規模停電など甚大な被害をもたらしました。田んぼの学校の稲も心配でしたが、台風通路の西側だったこともあり、倒されはしましたが泥田に浸かるまでの横倒しは辛うじて免れました。今年はさらに、福岡県、佐賀県、三重県など各地で大雨による田んぼの冠水被害がでました。あらためて自然の脅威を感じるとともに、無事に収穫できる大地の恵みに感謝します。

当日、8時30分には最初の生徒が登校です。保護者は見事に黄色く色づいた稲穂に目を奪われます。受付、服装の確認、田んぼクイズの提出、バケツ稲の相談を終えると、生徒は虫探しが始まります。好天の割には生徒の出足が鈍く9時になっても半数弱しか登校せず、開始時間を少し遅くし9時10分に開校しました。参加者は生徒26名(欠席16名)、保護者29名、幼児等4名、スタッフ20名、市職員3名、合計82名とかなり少ないです。

マンツーマンでの指導

稲刈りは鎌を使うので、毎回、安全には特に気を使います。最初にスタッフが稲刈りの模範をみせ、その後、生徒は一定の間隔(120cm)を取って整列します。生徒に鎌を手渡し、稲刈りに入ります。生徒1名に保護者またはスタッフ1名がつきマンツーマンで稲刈りの指導をします。



たわわに実った稲穂
スタッフによる模範指導

最初は恐る恐る鎌を株の根元にあてますが、思うようには刈れません。スタッフの指導で鎌の鋸刃を使って2度3度と鎌を引きながら動かすことによってやっと刈り取れます。真剣そのものの顔が笑顔に変わります。見守っている保護者も笑顔です。最初はぎこちなかった稲刈りが2株目3株目になると徐々に上手くなり、手際がよくなります。稲は台風でかなり倒されているので根元の確認が大変です。

生徒、保護者、スタッフの協働作業

倒された稲をかき分け、根元を探し、探し当てると左手でしっかりと根元をつかみ稲刈りをします。生徒が1株刈り取ると後ろで見守っている保護者に手渡し、さらに後ろで待機している結束ハサかけ組の保護者に手渡します。

4株単位で結束し、待機している生徒への手渡し。生徒が稲束を抱え、運搬し、背伸びをしながらハサかけをします。今日は稲刈り、稲束の結束、ハサかけも生徒と保護者との和やかな協働作業です。最後の1株は周りの皆に見守られ、記念写真を撮りながらの稲刈りです。



皆に見守られ、最後の一株



アマガエルを捕まえて歓声！

最後は刈り終わった田んぼで落ち穂拾いです。子ども達は落ち穂拾いそっちのけで昆虫探しです。アマガエル、カマキリ、バッタ等。手のひらより大きいトウキョウダルマガエルを捕まえた時は大歓声があがりました。落ち穂拾いの後はハサの前に全員が並び笑顔の記念写真(㊤㊥)です。

参加した生徒と保護者からは、「鎌の使い方は最初難しく思ったけど、慣れたらうまく使えた。疲れたけど楽しかった。初めての体験ができてよかった」等々意見が寄せられました。東京で田植え、稲刈り体験ができる環境にあらためて感謝したいです。

(柿本 正夫)

感謝が
湧き出る

20周年記念式典に思うこと

まず一番には、創立20周年記念式典をプラッツ市民活動センターで盛大に開催されたことです。これは、私にとって大きな感激であり、強い感謝の念が湧き出てきます。

「環境問題懇談会」から「府中かんきょう市民の会」へ

20年前に「環境問題懇談会(横山永望会長)」として発足し、「NPO法人府中かんきょう市民の会」と名称は変えましたが、歴代役員と会員の皆さんの熱意による活動のたまものだと思っています。もちろん、ご指導をいただいた農工大の先生方、特に小倉紀雄先生の一言、「府中でも環境問題について活動するグループを作ったらどうですか」がきっかけで会ができたのです。



懇親会での小倉紀雄東京農工大学名誉教授(中央)／左端の白い上着は筆者の横山永望氏(現相談役)

この20年の間には亡くなられた人、退会された人等の活動も思い出されます。また、「協働」ということで府中市とも協力を深めてきました。



参加者記念撮影

さて、私が平成元年にリタイアしてから30年になります。その間に環境を取りまく事情も色々変化しました。平成の初めの頃はマスコミが21世紀は環境の世紀であると喧伝していました。日本で環境庁が環境省になったのは2001年のことです。その頃ドイツでは既に10数年前に環境省ができて、平成2年頃でしたか環境大臣が来日し、環境に対する国の取り組み等の話を聞いた覚えがあります。

私はその頃「浅間山自然保護会」で色々活動していました。都庁の環境局環境保護課や建設局の公園緑地課、井の頭公園内にある西部緑地事務所へ行き、浅間山の自然環境の保全と公園として最小限の整備について色々意見を交わしたものです。

子供のときに「環境」に関心を

私たちの会ができた頃に小中学校の「総合的な学習」が始まりました。以前から、子供のときに環境に関心を持ってもらいたいと考えていましたので、現在、近隣の学校で話をするなどお手伝いをしております。(横山 永望)

地道な
活動へ

20周年を迎えて、そしてその先へ

2001年7月の会報刊号で、当時の会長の横山さん(現相談役)の「発刊に思う」との欄に以下の文章があります。

『いま私の願いのひとつは、会員数が倍以上になり、4つか5つの専門部会ができて、来年度からの小中学校での総合的な学習に環境教育の講師の依頼を受けられるといいなと思っています。』



小西信生理事長のご挨拶

初代会長の願いは達成されたか？

当会が発足して2年後の初代会長のメッセージですが、約18年後の現状は以下のとおりになっています。

会員数については、10月1日現在の会員数は正会員、賛助会員合わせて66人、10周年記念誌の2001年度の会員数は32名だったそうですから、ちょっとだけかかもしれませんが、横山さんの願いを上回っているかもしれません。

専門部会は、西府崖線チームや田んぼの学校、援農ボランティア、大気汚染調査や多摩川水質調査などの環境調査、今年で連続3年目になる環境学習、2019年から始めた府中町農園塾など分け方によって違ってはきますが、5つ以上にはなっているようです。

総合的な学習は、現在府中第五小学校で3年目を、四谷小学校では1年目をこなしています。いずれも、小学校3年生の授業として行なっているものです。

健康で息の長い活動を

20周年を迎えるにあたって、つぶれずに続けてこれたことが、現在の代表としてはまずはよかったと考えます。これまでの代表や役員を務めてきた方々や、会の活動を支えてきた各会員に感謝したいところです。

今後の当会の活動については、多分大きくその活動内容を変えていくのではなく、20周年記念誌で述べているとおり、「府中の環境保全、まちづくりの活動を、市民活動で市民ボランティアとして、楽しく」行なっていくことではないか、と考えています。

年会費を払ってまでボランティアとしてほぼ無償で参加している活動ですし、歌を歌ったり、スポーツをするなどの直接本人に活動の成果がかえってくる団体としての活動はありませんが、健康で息の長い活動を



当会の活動をいつも支援してくださる大平充さん 博士(農学)／中央◎白シャツ

会員各自や当会全体が続けていけることをめざしていきたいと考えています。

(小西 信生)

<20周年記念式典は5月12日(日)13:30~16:30プラッツ6Fにて開催>

20周年
おめでとう

ボランティア活動と身近な自然

改めて、「府中かんきょう市民の会」の20周年おめでとうございます。玄界灘の風光明媚な観光地(唐津)の田舎で生まれ育ち、縁があり府中とのかかわりは50年程になります。

ボランティア活動は十数年前に奥多摩の多摩川水源森林隊(現在は不参加)を皮切りに日の出の森林整備活動を社会貢献のひとつとして現在も支援しながら、「府中かんきょう市民の会」の活動に軸足を移しています。

「府中かんきょう市民の会」は「援農」と「畑の学校」への自主参加から始め、今春には「府中町農園塾」が新設され、皆様との共同作業は交流の場として耕作物の収穫を楽しみに頑張っています。「田んぼの学校」では田植えと稲刈り等を子供さん達と一緒に楽しんでいます。

龍王峡ブナ林でエコツーリズムのサポート模索中

身近な自然は八王子の畑で土壌づくりから無農薬の野菜栽培に汗を流し、日光の釣り堀(溪流魚)で自然体験をしています。釣り堀は自然に囲まれたところで、子供さん達には昆虫遊び(トンボが多い)、沢水遊びやニジマスのつかみどり等自然遊びをのびのびと楽しんで貰っています。



常連のお孫さんに釣り方を教える筆者には昆虫遊び(トンボが多い)、沢水遊びやニジマスのつかみどり等自然遊びをのびのびと楽しんで貰っています。ニジマス釣りではお子さんが釣れた時に喜ぶ姿を家族で楽しみ、思い出の1ページとなるようにお客様目線でのサービス提供に心掛けています(一期一会)。子供達は自然環境によって育まれるとも言われていますので、ここでの自然体験から育まれるもの(学び・自信)は大きなものになると期待しています。

また、龍王峡ハイキングコースのブナ林ではエコツーリズム(自然環境保全につながる観光)にお手伝いできないか模索中です。地域の方とは毎日の安否確認を兼ねた薪ストーブ雑談で交流を重ねており、地産地消及コラボレーションで地域活性化にも少しですが貢献しています。

2015年9月の50年に一度の豪雨では鉄砲水が出て床下浸水や国道崩落等の災害を目の当たりに経験し、自然の怖さも学びました。農風景や里山好きと水の知識を得て自然の大切さと怖さを感じるこの頃です。(牧原文男)

ハケは、小さな森

西府ハケ(崖線)には湧水・用水路があり、四季折々の自然が感じられる憩いの場所で散策される方も多く、夏は用水路で網を持って生き物と戯れている家族連れや元気な子供達は用水路に入り遊んでいる姿を見かけます。また、運が良ければカワセミとも出会え、冬はメジロ・シジュウカラ等の小鳥の囀りで小さな森を感じさせる府中では数少ないところ



モミジの枝から池の小魚を狙うカワセミ(西府崖線/筆者撮影2016.1.17)

です。現在は清掃・巣箱・野鳥観察等の活動に参加。

循環型社会 に向けて

府中市のごみ減量の近況

府中市は「ダストボックス廃止、ごみ袋有料化、戸別収集」いうごみ収集方法の変更を2011(平成22)年2月から行ないました。その後2012(平成23)年から、府中市一般廃棄物処理基本計画(ごみ減量基本計画と略)で、ごみ削減の目標を、市民1人1日あたり595g以下にすることとし、削減に取り組んできました。

※基準平成23年度:市民1人1日あたり644g、ごみ・資源物の合計(事業系ごみを含む)/10月1日現在の人数で計算

今後の新たなごみ減量の方策



府中市リサイクルプラザ/リサイクルセンター(府中市四谷)。粗大ごみ、有害ごみ、燃やさないごみ、危険ごみなどの処理場

2018年度(平成30年度)のごみ・資源物の数値は605gと公表されており、早ければ今年度、または来年度(2020年度、令和2年度)中に目標達成の可能性が出ています。

一旦、目標値まで削減しても、その後リバウンドしてごみ・資源物が増えてしまう可能性もありますが、とにかくごみ減量が進み、目標をクリアできれば、それはいいことでしょうし、最近の国や世界で言われているブルーオーシャンビジョンや、サーキュラーエコノミーと言った環境を守る方向性とも併せて、今後の施

策について議論を深めた上で、適正なごみ減量の目標(指標)を定めていく必要があるようです。

平成15年度のごみ半減目標を、いまだ達成できず



多摩川衛生組合・グリーンセンター多摩川(稲城市大丸)場所は、「郷土の森公園」向こう岸の多摩川右岸

府中市は1957(昭和32)年二枚橋衛生組合を小金井市・調布市と設立し、翌年から焼却施設としての機能を市民に提供、1968(昭和43)年からダストボックスによるごみ収集を開始、無料で一

般ごみの収集・処理を行なってきました。現在は多摩川衛生組合グリーンセンター多摩川では燃やすごみを焼却し、府中市リサイクルプラザリサイクルセンターではその他のごみを処理しています。

平成15年に策定した環境基本計画では、10年間で「ごみ50%削減」の目標を掲げてごみ削減に取り組み、ごみ収集方法変更後の平成22年度には38,100トンを削減しましたが、平成30年度でもまだ34,000トン以下になっていません。

※基準年度:平成13年度のごみ68,000トンを半減する。34,000トンの分別は以下。燃やすごみ(グリーンボックス)、燃やさないごみ(オレンジボックス/不燃+容器包装プラスチック)、粗大ごみ、危険ごみ、有害ごみの合計

(小西 信生)

最終答申案
の検討府中市
「緑の基本計画2019」中間報告

2017年11月6日に「第1回緑の基本計画検討協議会」が始まり、2018年10月には公園緑地課が市内3か所で、都市公園法、都市緑地法や生産緑地法等の法律改正内容を含めたポスターセッションを行なった。当初より協議会は6か月延長され、最終協議は、第10回(2019/09/13)で終えた。

緑を育て、緑に育てられる「緑育」のまちづくり

みんなで緑を育て「緑育のまちづくり」を進めていくことを主題目に、5つの基本目標を柱に、13の基本方針、28の具体的な施策を検討。最終回は、市民活動団体や民間事業者等の「緑のパートナー」との協働を柱に、数種のプロジェクトを形成し、重点的に推進する内容について検討した。

「水と緑のネットワーク」のさらなる形成はハード面だけではなく、活動主体の人と人がつながり合えるしくみを作ること、府中崖線の樹木の保全や農の風景を継承し農地を生かした機能の形成、公園や緑地等に防災機能を、生物多様性保全の普及活動等の内容が挙げられた。市内約400か所の公園や緑地等の維持管理は現進行の市のインフラ



府中市役所 北庁舎3階 第6会議室

「緑の基本計画検討協議会」は2年間、10回開催された。最終回終了後の検討協議会委員と公園緑地課職員との記念撮影(当日3委員欠席)。検討協議会委員は前列左から小岩井雅人、浅田多津子、千賀裕太郎会長、佐藤留美副会長、後藤瑞穂、山田義夫、後列左葛西利武

マネジメントに基づき老朽化対策が講じられるだろうが、そこには必ず市民による緑育のまちづくりの視点を入れることを全委員で確認し合った。

9月30日に市長に答申をし、年内のパブリックコメントを経て、2019年度末に新計画(2019年～2029年)策定の予定である。(緑の基本計画検討協議会委員 浅田多津子)

第6回歴史・自然遺産めぐり

水と緑のコリドー、
心安らぐ自然豊かなコース探訪

文化の日の11月3日(日)、JR南武線西府駅をスタートし、JR矢川駅を終着点とする、府中市から国立市にまたがる崖線歩きツアーを開催します。時間は朝9時から2時間程度を予定し、錦秋の府中を一緒に散策しませんか。

コースは小さな森といわれる「西府ハケ」と谷保天満宮、古民家、立川断層崖等の自然豊かなコースです。ガイドは小西信生です。申込み受付は、広報ふちゅうかわら版掲載日「10月21日(月)」からです。先着20人。

右に実施要領を示します。

①錦秋の西府崖線



③城山さとのいえ

②谷保天満宮寶物殿とニワトリ
(境内に「ニワトリ見守り」の貼紙あり)

④古民家(旧柳澤家住宅)



日時	11月3日(日 文化の日)午前9時から約2時間 ／荒天4日(月 振休) ※天候問い合わせは葛西へ
行程	JR南武線 西府駅→御嶽塚古墳→西府崖線→ 西府町湧水→谷保天満宮→城山さとのいえ →古民家(旧柳澤家住宅)→立川断層崖→ JR南武線 矢川駅解散 全行程約4 ^{km} 。 ※トイレは数か所にあり
集合場所	JR西府駅 改札口前 9時集合
服装色	ハチ対策として黒系をお避けください。
費用	300円(カラー図版等資料代 保険料)
事前申込み制	葛西宛(Tel. 090-5564-5838)
	☆10月21日(月)から受付。先着20人
問合せ	葛西、または公園緑地課(Tel.042-335-4263)

秋の清掃活動(兼巣箱清掃)

府中まちなかきらら登録団体

西府崖線秋の清掃活動を行います。実施要領は以下です。崖線の貴重な「水と緑」を一緒に守りませんか。皆さまの参加をお待ちしています。

日時	10月26日(土)／荒天27日(日) 10時～11時30分(会員は9時30分集合)
集合場所	西府崖線下 あずまや周辺(日新町1-7)
服装等	長靴、長袖、帽子、マスクを持参 ※ハチ対策として黒系をお避けください。
問合せ	葛西(090-5564-5838)、または公園緑地課 公園管理係(Tel.042-335-4263)

◎広報ふちゅうかわら版「10月11日(金)号」に掲載
※清掃終了後に崖線の生態系調査(昆虫)を実施

参加者
寄稿

わき水まつり／野外活動

近藤雅人講師

☆東京農工大学大学院修士1年

7月21日(日)に開催されました第9回わき水まつりに昨年同様参加いたしました。昨年は手元の温度計で40℃以上となり酷暑下での開催でしたが、今年は程よく雲がかかり、幾分快適な状態で過ごせました。時間は9:30～11:00です。

昨年と同じように、府中用水の下流部にてガサガサを始めました。その結果、皆様の協力もあり、メダカやコイ、ナマズ、タモロコ、ハグロトンボのヤゴなどを捕まえることができました。



水を得た魚のように元気な子供たち

「外来種について学ぼう」コーナー



あずま屋に戻ってから観察用水槽に魚を振り分け、コイとフナの見分け方を説明した後、「外来種について学ぼう」のミニコーナーを担当させていただきました。

これは昨年アメリカザリガニが大量発生していた

好評だった紙芝居風の野外勉強会。これは昨年アメリカザリガニが大量発生していたことを踏まえ、子供たちが外来種問題を考える場として設けました。環境省が公開している資料などを参考に、短い時間でしたが興味を持ってもらえるよう話をさせていただきました。

この問題を解決するためには、「生き物に関心を持ち続けること」が大事だと思います。水辺の生き物にあまり興味がわかないは、植物や鳥類など、なんでも構いません。参加してくれた皆様のように、生き物への関心が高いだけでなく、そうでない方も含めて、身近な生き物への関心を持ち続けられるようになれば、新しい令和の時代も豊かな自然を残していけるのではないのでしょうか。

今回は、大平充さんが都合により欠席でした。そのようななかで、私の体調不良のため皆さまにご迷惑をおかけしましたが、大変有意義な時間を過ごすことができました。

齋藤なつみさん

☆親子3人参加

夏休みの初日、小学2年生と幼稚園年中組の男の子を連れて、わき水まつりに参加しました。今年で3回目の生き物探検隊です。

ガサガサとは？

集合場所は市川緑道のあずま屋です。長靴を履きバケツや飼育ケースを持ち、用水路へと出発します。到着したらまず「ガサガサ」の説明を受けます。「ガサガサ」とは、川に入って魚などの水の生き物を網で捕まえる遊びのこと。

底が平らになっているタモ網を川底にぴったりくっつけて、足を動かして生き物を追いやりませす。

次男は昨年までは、水の中に入るので精一杯でした。今年はしっかりと網を持って、足をバチャバチャしています。エビや貝、ヤゴを捕まえることができました。上流からは小学校中学年くらい



元気に府中用水に入る長男と次男の男の子たちの「魚捕まえたー！」という声が聞こえます

長男は自分も大きな生き物を見つけたくて、必死にガサガサを繰り返します。何度もチャレンジして、ようやくハグロトンボのヤゴを捕まえました。長細い珍しい形のヤゴを見てとても満足そうです。

活動中は先生やスタッフの方が「こうやるんだ！」「なに捕まえたの？」「お水飲んでね！」と、体調を気遣いながらフレンドリーに話しかけてくれました。

最後にあずま屋に戻って、みんなが捕まえた生き物を観察します。ザリガニやヤゴの他に、フナ、ナマズなど大きめの魚もいてとても驚きました。実物を見ながら、コイとフナの見分け方、ナマズの成長についてなど色々なことを教えてもらいました。



あずま屋でお母さんと一緒に魚の観察

身近な場所にこんなに沢山の生き物が住んでいるなんて、普段の生活では全く気づきませんでした。魚の捕り方や種類を詳しく説明してくれるので、大人も子供もとても勉強になります。来年もぜひ参加したいと思います。

金子里恵さん写真提供

※2019年7月撮影

ドジョウのレン君はあれから3度ほどわずかな水槽の隙間から飛び出したりしましたが、元気です。今年で4年目になりますので、すっかり我が家にもなじんでいます。

ときを同じくして我が家の一員となった金魚とレン君のお世話は主に主人がやっております、「絶対面倒は見ると！」と宣言した娘は、ごくたま〜に餌をやる程度で、約束はほぼ守られてはおりません……。 (金子里恵さんコメント)



(編集部から) 会報(21016年秋号／通巻62号)に掲載されましたドジョウのレン君のその後です。故郷の府中用水から新天地の金子さんちに移住して元気に過ごしております。水温調整など適切な管理のもと長生きしております。ご報告いたします。